

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990600120		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホーム 四つ葉のクローバー 桜井		
所在地	奈良県桜井市粟殿318-1		
自己評価作成日	平成27年4月29日	評価結果市町村受理日	平成27年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で認知症があってもその人らしく暮らして頂けるケアの実践を目指し、職員一同が取り組んでいます。常に御利用者、御家族の立場に立って考え対応できるように綿密に申し送りや業務の見直しも行っています。母体である医療機関は24時間対応可能で、週に1度の往診があります。協力医療機関として常勤の看護師の対応ができており、安心して暮らして頂ける環境にあります。また、月1回の歯科検診、歯科衛生士による月2回の口腔ケアをさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を中心とする法人事業のこれまでの取り組みの中で、グループホームの必要性を認識し、開設されたホームです。事業所内は清掃が行き届き清潔で、また、採光や室温の調整も適切に行われ、穏やかに暮らせる環境が整えられています。利用者は、経験や能力を発揮する機会や場面があり、安心・満足を覚えながら生活されています。職員は運営理念を基本に生活支援に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成26年4月8日開設。地域に開かれた施設である事を目指し、日々の業務の中で確認し合い、理解できるように取り組んでいます。	家庭的な環境の中での支援を重視した理念とされています。また、法人の理念が事業所内に掲出されています	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の運営理念を検討されるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の自治会の会合に出席し、地域の中の施設としての認識を深めて頂けるように努力をしている。今後も行事などの参加を利用者様と共にできるようにしたい。	立地環境から日常的な交流に希薄感がありますが、自治会への加入や地域のサロンにも参加し、事業所が孤立しないための取り組みをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合など幅広く参加させて頂き、高齢者が住みやすい街づくりについてや、認知症キャラバンメイトとして地域でどのように支え合うかなどの意見交流をさせて頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年開設し、実質一度しか運営会議を開催できていない。今後は、いろんな課題に対する意見を交え運営やサービスに生かして行きたいと思っています。	幅広いメンバーで構成された運営会議を設置し、開催されています。会議ではサービス実施報告や利用者処遇、地域活動のあり方等を論議し、運営に反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会議の出席を毎月しています。開設し、日が浅い為、わからないことや空床の状況等知らせています。	行政の窓口を訪問され、運営上の相談や情報交換に努め、連携強化に努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアの重要性を理解しているが、現在徘徊の症状のある利用者様がおられ、また、交通量の多い道路に面し、真横は線路という立地の為、玄関等の施錠をしている。	身体拘束をしないケアについてミーティング等で話し合い、職員の共通認識を図るようになっています。出来る限り施錠を行わないよう取り組んでおられますが、利用者の安全確保から玄関は施錠されています。	今後は、利用者の安全確保の上、鍵をかけない対応についての工夫を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修に参加し理解できる機会を設けようと思います。常に入居者の身体状況を申し送り変化が無いかの注意を払い、内部での研修も定期的に行いたいと考えています。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修や勉強会に参加し学ぶ機会を持っていきたいと思います。権利擁護の利用者様もおられた為、必要な話し合いの時間も持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章及び口頭で十分に説明を行い対応出来る様にしています。不安や疑問に対しても安心して頂けるように配慮し理解と納得をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分説明をしている。また、苦情については、第三者機関と契約している事も説明、契約書にも明示している。いろいろな意見を話し合い運営に反映させている。	家族の訪問時に、不安に感じている事や意見・要望等を聞きだす取り組みをされ、寄せられた意見等を定例会議で検証し、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談時や日々の申し送り、カンファレンスやミーティング時等、意見を提案できる機会を設け記録し、反映させている。	申し送りの時に意見交換や提案をする機会が確保されており、必要な事項は運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の確認。資格や勤務状況に応じて給与水準を設け、年に一度人事考課を行い、対応している。各自のキャリアに応じた入カソフトがあり、自己評価を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課等を元に各人の把握に努めている。また、研修を受ける機会を設けている。内部研修は、予め計画を立て取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度地域密着部会を開催し、ネットワーク作りをしている。各々の問題点や看取りにつてなど具体的に意見交換ができる場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に把握出来るように努めている。思いに添って話しをして頂けるように対応し、意見をお聞きできない場合は、家族様を通して今までの生活歴を踏まえ安心して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでの間に何度か面談を行い必要なケアについて十分話し合っている。家族様の気持ちに添い不安や心配無く、ホームでの生活を送って頂けるように密に連絡を取れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や生活歴を詳しくお聞きし、本人と家族の立場に立ってどんなサービスが必要かを他職種や他サービス提供者と共に連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな場面で共感できるように働きかけている。また、個々の関りを大切にし、いろんな形で役割りを持って頂けるような取り組みを行い、一緒に生活をしているという環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかに連絡させて頂き、状況の変化の共有をし、理解しながら支え合って行けるように家族の協力も得て、支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの人達へ連絡を取って頂き面会に来て頂いている。また、手紙を書いてもらい職員が投函している。老人会のカラオケ大会等、家族の協力で外出もして頂いている。	安定した生活を確保する上で、馴染みの関係の維持・継続も大きな要因との考えがあり、老人会のカラオケに出かけたり、馴染みの関係が途切れないような働きかけが行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係把握に努め、レクリエーションや運動、散歩をして頂いている。テーブルの席の配置も考慮し、自然に関れるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の状況の変化、家族様の変化等も含め連絡を取り合っています。その時々々の相談に対応させて頂き、多職種との連携もとっています。亡くなられた利用者様の奥様が、同敷地のデイサービスを利用して下さり、安心して下さっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向、希望を職員で把握し、楽しみを持って生活を送って頂けるように話し合い対応しています。また、意思表示の困難な場合は生活歴や表情等から汲み取りケアを行っています。	希望・意向の聴取や暮らしの中での言動からの把握・記録に努め、サービスに活かす取り組みをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はケアを行う上で重要な事である為、関りの中で大切にしています。また、入居に到るまでの経緯も理解し、情報を共有し、ケアに取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方、昼夜の変化を把握し、介護計画を立てて総合的に支援ができるように努めています。また、残存機能を生かせるように個々の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは、本人の状況に応じ話し合える機会を作り、意見をお聞きし介護計画を作成している。また、職員とも全体のミーティングを開催しその都度話し合っている。	介護計画は、身体ケアに留まらず、本人の希望等も活かすために関係者が相談して作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とは別に全体への申し送り記録、看護記録、往診の記録の作成、基本的に詳しく情報を記入し、共有している。その事により、状態の変化や長期間による変化を掴んだ上で介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現場職員・看護師・主治医等多くの関わりを通し、多様な考えの中で、その都度の最適な支援の方法を考慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後の課題であり、現在は、ホーム内の環境の中や周辺の散歩などで個々に応じた対応をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である病院がかかりつけ医として対応している。また、本人及び家族にも納得して頂いている。毎週水曜日の往診対応も整っていて、特変時にも適切な医療を受けて頂ける環境である。	入居時に、かかりつけ医について相談し、本人の希望を優先した対応をされています。なお、受診に際しては、暮らしの状態等の情報提供を行い、適切な医療確保に努められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正職員の看護師が常駐し、また、休日なども24時間連絡が取れる体制を築いている。個々の利用者の把握もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時には必ず状態の確認を行っている。主治医や担当看護師とも話し合う機会を持ち早期退院に向けての相談を行っている。また、退院後も常に状態の報告をし、連携が取れる関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化に注意し、家族に説明。主治医や関係者にも相談をし話し合える時間を作り、方針を共有している。また、終末期には、母体の病院への入院か、ホーム内での看取りかを相談できる体制を整えている。	家族の終末期への関心が高い事を理解し、対応方針の作成と契約時に説明をされています。また、状況に変化が見られる時には、その都度関係者が相談し適切に対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時、心肺蘇生や特変時の対応の実習を行っているが、定期的にはできていない。今後も利用者様の個々の疾患を理解し実践できるように対応する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しています。管轄の消防署の応援や指導を受け職員が緊急時に対応出来る様にしていますが、地域の協力体制は築けていない。	年2回の消防訓練等を実施されています。地域の協力体制の構築について、検討されています。	災害時には、利用者を迅速・安全に屋外へ誘導する事が求められます。このためには、周辺住民の協力が不可欠と考えられますので、今後、体制を整備されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や家族構成などいろんな面を考慮し、本人が自然な振る舞いができるような言葉かけが出来る様に対応しています。	一人ひとりの尊厳を大切に、暮らしの中で常に言動等に留意した支援に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で事前の言葉かけをしています。また、意思疎通の困難な入居者にはスキンシップを図りまた、表情等から汲み取り対応し、気付いた点や希望などを記録し申し送りを重ね共有できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を大切に、食事内容や入浴時間を考慮出来る様に対応している。また、日々の暮らしの中で希望を聞けるように、できる限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容とも本人の意見を大切に、希望に添うように対応している。また、その人らしく過せるように個々の状態に応じたおしゃれが出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の感想等をお聞きし、楽しみのある時間に出来る様に対応している。準備や片付けなどで、出きることは手伝って頂き個々の能力に応じた部分で一緒にして頂いている。	食事の盛り付け、配膳・下膳等、利用者の能力に応じて協働され、また、職員も一緒に食事を摂り、楽しい雰囲気作りに取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分補給のチェックを行い把握する。また、個々の病歴や身体状況に応じ1日を通じて理解できる勤務体制ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々により対応している。必ず最低1日1回は口腔内の確認を行い清潔の保持を行っている。月1回の歯科検診・月2回の歯科衛生士の訪問がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様に支援をしている。日々の改善を心掛けひとり一人の排泄パターンを理解し対応している。	一人ひとりの排泄パターンの掌握・記録と行動観察によりトイレ誘導され、自立排泄への支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や食事内容の見直しをし、個々に合った運動や体操を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状態に応じた対応はしていますが、ホーム側の設定日の入浴が多く、個々の希望を反映できていない状況ではない。	基本的な入浴日や入浴時間帯の設定はありますが、体調を勘案しながら、一人ひとりの希望を優先した支援が図られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて対応しています。起床時間も考慮し、午後の臥床時間の確保しています。また、夜間の就寝時には、明かりや空調、湿度の調節も行い、気持ちよく眠って頂けるような環境作りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を個々にファイル管理し理解できるようにしている。また、副作用についても主治医や看護師からの報告があり、往診時は薬剤師の訪問もあり、状態の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は個々の生活歴を理解し、状況に応じた役割や楽しみのある生活を提供出来る様に対応している。毎日の日課の中でも気分転換の場の提供を意識し、声を掛け合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ外出支援をしている。いろんな行事に家族と共に参加、交流して頂けるように文書などで発信し、本人が出かける事ができるように協力も得ている。	周辺散歩の日常化や本人の希望を取り入れたドライブ・買い物等、外出機会の確保に努められています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常ではお金の面での支援はできていないが、買い物の外出支援の際は、本人様に支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡できる利用者にはいつでも使って頂いている。手紙の代筆を行ったり要望があれば、内容を読ませて頂いたり積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛けている。季節感のある音楽を流したり、空調の調整、湿度の調節を確認し対応している。また、両ユニット共、季節のディスプレイをし、居心地良く過ごして頂けるように支援をしている。	明るく広い共用空間は清掃が行き届き、また、季節に合わせた適度な装飾をされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮したり、両ユニットの利用者が移動してレクリエーションに参加して頂いている。また、共通の趣味を生かした活動もできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の面談時には、環境の変化による不安が増す事が無いように、できるだけ入居前に使用されていた物を持って来て頂き不安なく過ごして頂けるように配慮している。	利用者の使い慣れた家具や好みの品々が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや日程をボードに記入し、日課の理解ができるように対応している。トイレ・洗面所等分かり易いように対応している。		